

# 共生

奈良県生協連

2011年10月

NO.82

## 万葉のいぶきを求めて—(47)



西の市・船着き場付近

西の市に ただ独り出でて 眼<sup>め</sup>並<sup>なら</sup>べず 買<sup>あ</sup>へりし絹の 商<sup>あ</sup>じこりかも  
作 者 不 詳

平城京には京の南端近くに朱雀大路をはさんで東西二カ所の官営の市場が設けられていました。ここには米・塩・野菜・布・紙や農具・馬・牛など、なんでも売っていたようです。この市場に物資を運ぶため、市に接して運河が作られ、今日の秋篠川は、平城京造営時に直線化された人工河川で、写真の所には物資を荷揚げする船着き場がありました。

「この絹は、西の市で買ったんだけど、誰にも見立ててもらわず、独りで選んだのでとんだ買いそこないをしてしまったわい…」悔しがる男の顔が目浮かぶようです。

西の市は、写真の奥のマンション付近に広がっていました。1980年、この西の市跡の一角に7階建てのマンション建設計画が持ち上がり、81年には著名な歴史家や各種団体を含む広範な保存運動が展開されましたが、結局マンション建設は認められ西の市跡はブルドーザーに破壊され、その後も次々とマンションが建設されました。

奈良県  
での

# 医療福祉生協づくりが いよいよスタート!



## 設立発起人代表の就任にあたって

発起人代表 仲 宗 根 迪 子

第1回（仮）奈良県医療福祉生協設立発起人会は30人の発起人で無事スタートしました。奈良県生協連と会員である3地域生協の役員・組合員、医療や生協に関心をお持ちの学識者・弁護士など多彩な方々にお集まりいただき、私を発起人代表に推挙いただきました。

2009年に初めて日本生協連医療部会から奈良県生協連に医療福祉生協設立の打診がありました。翌年、医療生協とはどんな生協なのか、奈良での可能性などを探るために全国連合会から職員さんを派遣いただき会員生協への説明や県内調査をしていただきました。組合員さんからの期待や反応はとても良かったですね。

また奈良県の医療状況を知る機会にもなりました。医師や医療機関の偏在、救急医療体制の不足から県で新たに計画している「地域医療再生計画」など、健康づくり・保健予防・医療から介護の切れ目のない政策実現のために私たちも関心を高め、積極的に参画していくことが重要だと思いました。

医療福祉生協の組合員は、出資したからといって廉価で医療を受けられるわけではありません（保健予防など組合員価格メニューは検討します）。それでも自分や家族の健康、身近な医療を身近にするために医師や看護師さんなどの専門家と協同していくことは大切なことと思います。

そんな第一歩の診療所をみなさんとスタートさせ、将来は組合員の要望に沿いながら拠点を増やし、住民の健康づくりと地域医療に貢献できる医療福祉生協に育てたいと思っています。みなさんと一緒につくっていきましょう。

## 第1回設立発起人会に出席して

設立発起人 堀 脇 純 子



急速にすすむ高齢化や医師・看護師不足、医療の地域格差などの問題を抱える現在の奈良県にとって、健康・医療・くらし・いのちを守る医療福祉生協の設立が急務です。7月23日、この思いに賛同した30人の仲間が集まり、奈良県での医療福祉生協づくりの第一歩を記しました。

早速行われた意見交換では、「奈良県は、医師不足による診療所閉鎖という現状に直面している。市民の力を結集して医療福祉生協づくりをしていきたい」「20年間待っていた生協ができることに大いに期待している」という意見とともに「医療福祉生協に理解・共感できる医師の確保が最優先」「具体的な事業計画を知りたい」という率直な意見も出され、医療福祉生協づくりへの積極的な参画意識と大きな期待がうかがえる「第1回設立発起人会」となりました。

発起人代表に選出された仲宗根迪子氏からは、「医師・医療の県内産直を図ることで、将来的には地域の病院や医師養成機関との連携強化をめざし、組合員・県民への貢献を果たしたい」という力強い提案がありました。

設立までの活動計画も提案され、診療所の候補地もほぼ決まりました。今後の設立発起人会では、設立趣意書・定款・事業計画策定と設立に向けた具体的な取り組みへと入っていきます。

いよいよ運動のスタートです。多くの生協がそうであったように、一人ひとりの知恵と力を寄せ合って、地域の人々の健康といのちを守る「わたしたちの医療福祉生協」づくりをすすめていきたいと思っています。

## もくじ

医療福祉生協づくりがスタート ..... 1, 2  
集団的消費者被害救済制度 ..... 3  
地方消費者行政の継続的支援意見書 ..... 4  
環境のページ ..... 5

ピースアクション ..... 6  
おじゃましました・奈良女子大生協 ..... 7  
広がる協同、くらしの輪 ..... 8, 9, 10

# 医療福祉生協設立 発起人会

(仮)奈良県医療福祉生協設立  
発起人会ニュース No.1

## が 発足しました

(仮)奈良県医療福祉生協設立発起人会

発起人代表 仲宗根 迪子

TEL : 0742-35-1183

奈良県生協連と日本医療福祉生協連の支援によって、昨年の9月から取り組んできた県内の医療調査を終え、いよいよ奈良県での医療福祉生協づくりがスタートしました。

7月23日（土）、30人の発起人によって（仮）奈良県医療福祉生協設立発起人会が発足しました。設立発起人は、法律では生協の設立者です。20人以上が組合の発起人となり、設立趣意書、定款案、事業計画書および発起人名簿を作成し、賛成者（300人以上）を募らねばならない、と定められています。はじめに、奈良県生協連の辻専務理事から「県内9つの会員生協が力と心を合わせて、10番目の健康と命を守る生協をつくりましょう」との呼びかけがあり、大きな拍手がわきおこりました。



発起人のみなさん

発起人会ではこの間の調査や設立準備活動の状況、設立に向けた考え方や発起人会の運営、診療所開設候補地や今後の活動計画が提案され、11人の発起人から質疑がありました。医師確保の状況、診療所設立候補地、設立後の展望、事業計画と活動資金についてなど、新しい生協づくりに向けて活発に意見交換されました。



説明する仲宗根発起人代表

が全会一致で選ばれました。また、いっしょに生協運動をすすめていく医師について、それぞれの発起人があらゆる機会を通じて探することが確認されました。

設立発起人代表には前奈良県生協連専務理事の仲宗根迪子氏



質疑のようす

# 悪質事業者の不当利得を吐き出させ 個人の被害を救済する 集団的消費者被害救済制度 の検討がすすんでいます。

◎入学辞退したのに  
授業料を返してくれない!

◎敷金が戻ってこない!

◎偽装表示の食品を買わされた!

◎悪質リフォームの  
「次々販売」に遭った!

相変わらずこのような消費者被害が続いています

- トラブルに巻き込まれてしまっても、個人が裁判を起こすのは、お金も時間もかかり大変なこと。泣き寝入りしてしまう人も多いのが現状です。
- 「消費者団体訴訟制度」は、国に認定された「適格消費者団体」が「差止訴訟」（事業者の不当契約条項の使用や不当勧誘行為をやめさせる裁判のこと）を起こせる制度です。
- しかし、この制度だけではすでに受けた被害の回復には直接にはつながりません。個々の消費者の被害を救済し、事業者が不当に得た利益を吐き出させるためには、さらなる制度改善が必要です。そこで現在、被害救済にもつながる「集団的消費者被害救済制度」についての検討が進められています。



## 検討中の「集合訴訟制度」とは…



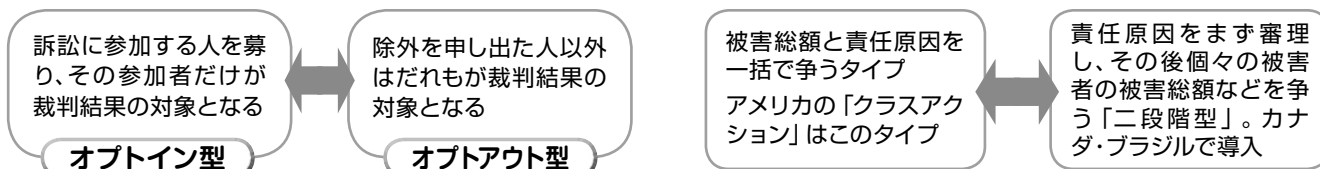
同種の請求をまとめてひとつの請求とする訴訟手続き。適格消費者団体が被害者を代表して不当利得返還請求訴訟を起こし、勝訴すれば賠償金を被害者に分配します。

適格消費者団体が「契約条項の不当性」を訴える訴訟を起こす

勝訴

消費者がその判決に基づいて、  
個々の被害に応じて調停や裁判  
で被害回復を求める。

具体的には次のようなパターンが検討されています。



## このほかに考えられている救済制度

### ▶行政による経済的不利益賦課制度

被害者の特定が困難で被害額も少額な場合に、行政が事業者課徴金などを課す制度です。

### ▶財産保全制度

行政が悪質事業者の破綻前にいち早く財産を差し押さえ、被害者に分配します。

- 消費者団体訴訟制度の担い手である適格消費者団体は、現在全国で9団体が認定されています(2011年1月現在)。関西には消費者支援機構関西(KC,s)、京都消費者契約ネットワーク、ひょうご消費者ネットがあります。
- 生協・消費者団体・相談員・弁護士などによるネットワークが各地で結成され、地方消費者行政強化の取り組みや学習活動を進めています。奈良県には「奈良の消費者行政を考える会」などがあります。



制度実現に向け、現在国（消費者庁・消費者委員会）での検討が進められています。順調に進行すれば2012年通常国会に関連法案が上程される見通しですが、よりよい制度の実現に向けては、私たち消費者・消費者団体に関心を持ち、世論を盛り上げることが重要です。くらしの安全・安心の実現のために、是非とも集団的消費者被害救済制度を実現させましょう!

地方消費者行政活性化基金が2009年創設され、奈良県でも多くの市町村で活性化計画を策定、それまでなかった消費生活相談窓口を開設したり、啓発の取り組みを充実したりしてきました。この基金は当初2011年度までの3ヵ年とされていましたが、自治体や消費者団体からの要望で一年期限が延長しました。しかし、それ以降は消費者行政に限定した交付金はなくなるため、厳しい財政のなか、各市町村が自前で消費者行政に当てる予算を確保せねばならず、様々な不安の声が出されています。

「奈良の消費者行政を考える会」（代表：北條正崇弁護士）では、この問題について論議し地方消費者行政の継続的支援を求める意見書を国に提出しました。全国でも同様の動きがあり、地方議会や、奈良をはじめとした弁護士会などの専門家団体、消費者団体が続々と要請をしているところです。

内閣総理大臣殿  
内閣府特命担当大臣（消費者担当）殿  
消費者庁長官殿

同文を参議院議長及び衆議院議長にも提出しました。

## 国による地方消費者行政の継続的な支援を求める意見書

平成 23年8月23日  
奈良の消費者行政を考える会  
代表 北條正崇

私たち「奈良の消費者行政を考える会」は消費者問題に関心のある県内の市民、市民団体、専門家が集まってともに考えながら、活性化基金の活用状況の調査や、各市町村及び県との懇談・訪問活動等を実施してきました。

消費者被害にあわない安心な暮らしを確保するために住民に身近な地方自治体での消費者行政の充実が求められる中、平成20年度、地方消費者行政活性化基金が創設され、これを契機に消費者行政を前進させることができた自治体も生まれてきました。奈良県においても多くの市町村で相談窓口の充実を中心に計画を立て活用が図られました。

平成22年度当会が実施した「地方消費者行政進捗調査」によると、活性化基金は相談窓口のセンター化や開設時間拡大、相談員の増員、啓発ツールの作成などに有効に役立てられたことがうかがえる一方で、基金の打ち切りには大きな不安を持っている自治体が多くありました。市町村の財政難もあり新規に予算を充てにくい実情もあるなかで、財政支援が打ち切られると、緒についたばかりの消費者行政の強化充実の方向がたちまち後退してしまうことも考えられます。

また、小規模自治体では広域連携によるサービス確保が期待されますが、奈良県では1か所で広域化が実現しました。ただ、連携方法によっては、相談窓口の主体となる自治体は活性化基金が活用できますが、主体とならない側の自治体は基金の活用ができないので余分にかかる人件費をカバーできない等の問題もあり、よりきめ細かい工夫も必要であることもわかってきました。

窓口稼働との関係では相談員の処遇が自治体によって大きな差があり、相談員は専門職としての能力発揮を期待されながら依然として不安定な地位にあるといえます。また、商品・サービスが多様化する中、消費者自身が力をつけるためにも消費者教育や啓発活動は欠かせません。

住民の安心な暮らしを守るためには消費者被害の救済と未然防止は不可欠なサービスであり、こうした地方消費者行政を後回し課題とせず、今後も国が財政的支援を継続的に図っていくことが非常に重要と私たちは考えます。よって、以下のことを要望します。

### 記

- 1 地方自治体の消費者行政の充実に確実につながるよう、地方消費者行政活性化基金等の延長も視野に入れつつ、一定の幅を持たせながらも用途を消費者行政と明示した継続的かつ実効的な財政支援を行ってください。
- 2 全ての地方自治体が身近で専門性の高い消費生活相談窓口を消費者に提供できるように、自治体同士の効果的な連携の姿が求められます。広域連携においても各自治体が財政的な裏打ちを持つ必要があり、この点でも国による支援が重要といえます。
- 3 また、被害を未然に防止し安心な暮らしを守るには住民への啓発と、消費者による主体的な学習活動や意見参画の場を設けることが必要です。こうした活動を促進するためにも継続的な財政支援を求めます。
- 4 消費者が安心して相談できる消費生活相談窓口の充実・強化を図るため、相談を担う専門家である消費生活相談員を含め、常勤はもちろん非常勤の立場であっても、より専門性を高めることができ、それに見合った待遇のもとで安定して勤務できる専門職任用制度の整備を行ってください。



# 田んぼの生き物調査



## コープ自然派奈良

古来、田んぼには、多様な生き物が生息、それらを食べる生き物を育む等豊かな生態系を築いてきました。田んぼの生き物を数え、様々な指標で計測、生き物が棲める環境（＝安全な食物を作る環境）を調査し田んぼを評価するのが約10年前に始まった「田んぼの生き物調査」です。間もなく、コープ自然派でも従来の有機農業推進に加え、生き物調査も開始。コープ自然派奈良では、2006年コウノトリとの共生を田んぼ中心に取り組む豊岡市（JAたじま）に学び、同市共生課の協力で翌年から県内で「生き物調査」を開始しました。棲息環境調査＊後、生き物の種類と数を調べます。いらないと思われた生き物も発見でき「こんなものもいたのか!」と生産者の励みにもなっています。

最近では、組合員親子が楽しく遊びながら調べる「水の生き物探し」を開始。田植えの2週間後に子どもたちが田んぼに入り、各々任されたエリア（9株分）の生き物を容器に入れて調べます。オタマジャクシやイトミミズ、ユスリカの幼虫、ミジンコなどがでてきて、20分ほどで調査終了。好きな生き物を持って帰っても良いことにしています。ただし、育てることは難しいこと、生き物も大切なこと、苗を踏んだら元に戻すことなども事前に伝えます。休憩後、橿原市昆虫館の先生がホワイトボードに田んぼの断面図を描き、名前



の確認をしながら書きこんでいきます。子どもたちは目を輝かせながら自分が見つけた生き物を発表。温度と生き物の複雑な関係等も学びます。今年は約50名の親子に営農組合の親子も参加。ここでとれるお米「大和ひみこ米」は人の手だけでなく、生き物の力も借りて循環することで作られることを知ります。子どもたちは田んぼに入れることが楽しい! 親は農業への理解が進み、生き物を探すわが子の姿がうれしいといえます。生産者も「かつて居た虫が戻ってきた、生き物を増やそう!」と自慢の田んぼになります。そのことが他の生産者にも広がり、生産者にとってもみんなに見られていることが重要なかもしれません。

### ＊棲息環境調査（5か所で測定）

田んぼの位置（GPS）、天候（風、気温など）水深、水温、PH、土壌の＊酸化還元電位、＊溶存酸素量、電気伝導率を機器で測定。

＊酸化還元電位：土中の酸化・還元度を示す。マイナスが高いほど雑草が生えにくく、イトミミズやユスリカの糞によってトロトロ層ができるとマイナス値は高い。

＊溶存酸素量：水中に溶けている酸素量のこと。値が高ければより多くの生き物が棲める環境となります。更に飽和溶存酸素量を超えた酸素は田んぼから空気中に放出され、地球温暖化にも貢献。

### 今年2011年は「国際森林年」

南米、アフリカで森林面積が激減し、途上国の森林減少に由来する排出量は世界の温室効果ガス排出量の約2割にも匹敵します。京都議定書ではこの問題は対象外。今後森林の減少・劣化に由来する排出削減を国際交渉に組み込まれる予定です。日本においては、森林・林業再生元年として弾みをつけられないか、持続可能な経営に貢献できないか、新しい価値を見いだせないかと検討中です。奈良県では11 / 20（日）平城京跡で第35回全国育樹祭が開催され、育樹運動の式典行事が行われます。



2011・国際森林年  
国際森林年ロゴマーク  
「人々のための森林」という  
テーマを伝えるもの

ご案内

# 核兵器のない平和な世界をめざして！

## 秋葉忠利 前広島市長と語ろう

□ 日時 12月3日(土) 14:00 ~ 16:30

□ 会場 奈良市ならまちセンター 市民ホール

待望の前広島市長秋葉忠利氏をお招きし、核兵器のない平和な世界をめざす、講演会を開催することになりました。平和市長会議のこと、核兵器禁止条約のこと、市民の役割などなど、国際的に多彩な平和活動を推進された経験を元に、熱く語っていただきます。

秋葉氏と参加者代表のトークもあります。

お申込み ならコープCSR経営管理 ☎0742-33-9516  
コープ自然派奈良 ☎0743-59-6660  
生活クラブ生協 ☎0743-58-5225  
奈良県生協連 ☎0742-34-3535

主催：秋葉忠利前広島市長講演会実行委員会

奈良県生活協同組合連合会（ならコープ、コープ自然派奈良、生活クラブ生協、奈良女子大生協、奈良教育大生協、奈良県立大生協、奈良高専生協、大阪樟蔭女子大学生協、奈良県労働者共済生協）、ならコープ平和の会、ならコープ with ユニセフの会、ならコープ労働組合、ならコープパート労働組合、励奈良YMCA

後援：奈良県 奈良市



秋葉忠利氏プロフィール

1942年 東京生まれ  
1999年に広島市長に就任。市長在職中、平和市長会議会長を務め、当初は参加都市数が440ほどであった組織を5,000近くの都市が加盟・賛同する組織に育てる。現在、広島大学特認教授

## 平和を願う子どもの気持ちは同じ

8月5日にYMCAと広島平和文化センター理事長リーパーさんの紹介で、平和活動に取り組むアメリカのNPO法人「インターフェース・パス・トゥー・ピース」のテリー・ティラーさんが奈良を訪れ交流することが出来ました。宗教や国籍の違いを超え平和を呼びかける活動、世界の子供たちが平和をテーマに描いた絵はがきの展示会などの活動を進めています。NPTの取り組みにも参加されました。今回はヒロシマの原爆ドーム近くの本川小学校校校平和資料館でその絵はがきの展示会を行うために来日されました。「国や宗教は違っても平和を願う子どもの気持ちは同じ」と話されました。



なごやかに交流

## 被爆された方から受け継いだ言葉をしっかりと次世代へ伝えていこう！



国本善平さん

7月8日(金)奈良県文化会館で 広島平和文化センター前常務理事国本善平氏を講師に迎え、「核兵器廃絶に向けた平和市長会議の取り組みと市民の役割」をテーマに、学習会を開催し47名が参加しました。国本さんの講演を受けグループに分かれて、平和についてのそれぞれの思い、平和市長会議や核兵器禁止条約についての思いを交流しました。学習会には、広島市国際平和推進部・2020ビジョン推進担当課長の荒瀬尚美さんも参加されました。参加者からは、「今まで気になりながら、何もしてこなかったが、一步を踏み出したい」など率直な意見が出され、12月3日の秋葉前広島市長講演会を成功させて「核兵器のない平和な社会」をつくらうとの熱い思いを語りあいました。

# ようこそ！ オープンキャンパスへ「受験生 応援します!!」



100年の歴史ある風格(正門から)

暑い夏、受験生にとってはすでに受験レースはスタートしています。7月23日(土)の真夏日、奈良女子大では、大学をあげてオープンキャンパスを開催。生協でも様々な取り組みをしています。そこで取材に行ってきました!

大学では、より深く大学を知っていただけるようにと受験生や保護者に一日構内を開放し、学部のガイダンスや模擬授業、研究室紹介、サークル紹介、寄宿舍・図書館見学などを行っています。生協の食堂では来校者向けに食堂を開け、学生委員も生協を少しでも知ってもらおうと大奮闘でした。

クイズ：奈良の大仏は  
○手を挙げている?



クイズで受験生と交流。スタンプ  
3つで購買のアイスを割引!

新入生歓迎のために学生委員が作  
成した冊子「NWU48」を配布

生協学生委員(1~2回生)によるスタンプ  
ラリー。みなさん揃いのポロシャツを着て  
のお迎えです。



1回生にとっては初めての経験。昨  
年は受験生として来た学生さんも。3つ  
の問題の正解者にスタンプを押して、購  
買部へご案内するしくみ。「少しでも生  
協を知ってもらいたい」「学生がいて  
安心してもらえる」と話すのは2回生の  
黒田有希さん(右)と大西理佐さん(左)。

食堂入口はすこし混雑。7きば  
きとご案内。特別メニューを  
1000食用意(通常は800食)  
おいしいと大好評。



## ~奈良女子大学生生活協同組合の取り組み~

**食堂 (KOTO KOTO Kitchen) 11:00 ~ 14:30**

オープンキャンパス用特別メニューを用意

特製お弁当..... ¥350      ようこそ丼メニュー・¥400  
ようこそランチ..... ¥450      ようこそ麺メニュー・¥400

**購買・書籍部 11:00 ~ 14:30**

スタンプラリーのスタンプ3つでアイス、ペット飲料が10%引き、オリ  
ジナルグッズ販売(奈良の八重桜、奈良漬クッキー、奈良漬カステラ)

**生協学生委員 WINDY コーナー**

- 学生スタッフの大学生活アドバイス(スタンプラリー) ● 先輩よりメッセージボード
- 「奈良の四季」コーナーフォト提供 三木先生 ● ソフトクリーム販売



「朝食たべてダイエット」講  
師の三木先生のご協力で奈良  
の美しい四季を紹介



応援メッセージボードで自分の出  
身県の先輩をさがす受験生たち

受験生は、遠方から家族で来られる方や一人でも来られる方もいます。それぞれ緊張した面持ちで来られますが、学生とのクイズでの交流でホッとされた顔になれるのが印象的でした。食堂でも「おいしい」と保護者の方も安心した笑顔になりました。生協の食堂のある学校はいいですね。生協がこれからも学生たちの支えになっていくことでしょ。

# 広がる協同・くらしの輪

## □第16回奈良県食品安全・安心懇話会が開催されました

2011年9月1日（木）猿沢荘で、奈良県食品安全・安心懇話会が開催されました。平成22年度奈良県食品衛生監視指導結果と平成22・23年度県食の安全・安心行動計画の説明がありました。複数の委員から奈良県における放射性物質汚染の対策について質問や要望が出されました。担当課（環境政策課、農業水産振興課、畜産課、消費・生活安全課）からそれぞれの対応策が報告されましたが、現在の奈良県内の空間放射線量率は事故前とそれほど変化がなく奈良県産は安全であり、県外からの流通物も国による規制で生産自治体が監視している。検査機器をさらに充実させ新たな事象があれば対応していくという報告がありました。

## □奈良県保健環境研究センター（奈良市大森町）を見学

9月9日（金）県保健環境研究センターにゲルマニウム半導体検出器を見に行ってきました。県内には食品も調べられるゲルマニウム半導体検出器はこの1台しかありません。土台も含め約2000万円かかります。検出機器は鉛の固まりで重く1.5～2t。鉛で全て覆わないと、環境中の自然放射線を拾ってしまいます。調べるものを2リットルの容器に詰めて、上の扉の中に入れて測定します。チェルノブイリ原発事故を受け、当時科学技術庁（現在文部科学省）の委託を受け、奈良では平成元年から測定。委託調査のため、調べる対象が決まっています。また、調べるのに感度を上げれば上げるほど時間がかかるそうです。現在はその合間を縫って農産物など県関係部署から依頼のあったものを調べているそうです。

奈良県では原発事故前後でほとんど空間放射線量率は変化していないとのこと。ただし、降下物の累積では、放射性セシウムとヨウ素は微量検出されています。サーベイメーターや空間線量の測定機器やデータも見てきました。現在サーベイメーターによる1mの高さでの空間放射線量率は県下広域的に12箇所を増やして測定しているそうです（月1回）。しっかりとした検査体制とデータの公表により「根拠のある安心感」を持ちたいと思います。

（奈良県HPで公表されています）



ゲルマニウム半導体検出器



サーベイメーター

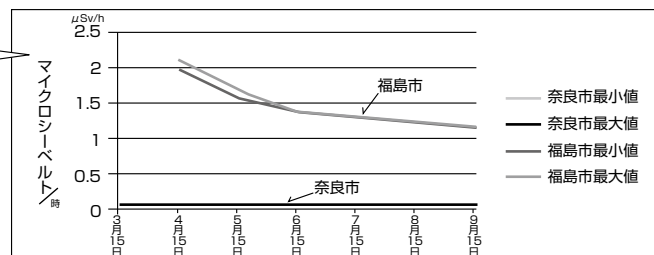


屋上に設置されたモニタリングポスト（毎日測定）

### 空間放射線量率の推移

文部科学省放射線  
モニタリング情報  
HPより作成

過去の平常値の範囲  
奈良市 0.046～0.080  
福島市 0.037～0.046



## 東日本大震災による原発事故後の県内の状況

3月におこった福島第一原子力発電所の事故や節電への協力を通じ、エネルギー供給に対する県民の意識は大きく変わりました。放射性物質による食品汚染の問題から、奈良県内の地域購買生協でも、組合員の不安に応え、原発事故やエネルギー政策、放射性物質の食品への影響についての学習会が各生協で開催されています。奈良県生協連では、奈良県の食品に関わる関係課の方を講師に、放射性物質の測定の現状についてのテーマで「第3回食の安全懇談会」を10月26日に開催する予定です。

## 県内自治体で「再生可能エネルギーへの転換」「脱原発」意見書採択

再生可能エネルギーの本格的導入や原発からの撤退を求める意見書が県内自治体でも相次ぎ可決されています。奈良県議会を始め、県内5市町（奈良市、大和郡山市、橿原市、川西町、広陵町）の議会では、エネルギー政策の転換に関する意見書を採択されています。9月議会でも生駒市、天理市議会などでも相次いで採択されています。特に奈良県議会では、自家発電設備や太陽光発電・蓄電池などの導入補助の拡充、LED照明設備の導入補助、エコポイントの復活などを求めています。

## 台風12号災害の被害にあわれた方々に心からのお見舞いを申し上げます

9月3日四国に上陸した台風12号がもたらした豪雨は紀伊半島に大きな被害を与え、奈良県・和歌山県・三重県においては広範に土砂崩れ、激流、浸水による甚大な災害が発生、奈良県では死者11人、行方不明15人（9月27日現在）という誠に悲しい事態に至りました。亡くなられた方々に対し深く哀悼の意を表するとともに、被害にあわれた方々には心からのお見舞いを申し上げます。災害では、吉野地域特有の地形地層から「深層崩壊」という現象も起き、大量の土砂と水は対岸の住居をも襲い、道路は寸断、電気・通信は途絶え、ライフラインが絶たれて孤立した地域が多数に及び、今なお「土砂ダム」の決壊の恐れがある中で心が休まることのない日々が続いております。警察、消防、自衛隊、県市町村行政の方々による必死の搜索と救援活動が続けられています。

県下の生活協同組合は、ならコープを中心に直ちに救援物資の搬送や募金、ボランティア活動を開始しておりますが、日本生協連並びに全国の仲間の皆さまからも多くのお見舞いと激励が届いており、心から感謝申し上げます

### □9月11日天川村で炊き出しボランティアを実施しました

奈良県社会福祉協議会の呼びかけで天川村坪内地区で炊き出し支援を行いました。奈良県生協連、ならコープから17名が参加し、住民およびボランティアの方々にカレーライス300食をお出ししました。幸いにもよく晴れた一日でしたが、これまで村では想像もできなかった甚大な被害で、その片づけは大変な作業ということです。中には浸水で家の中が全く何もできない状態の地区の方もおられ、昼食のひと時、疲れをいやしていただきました。



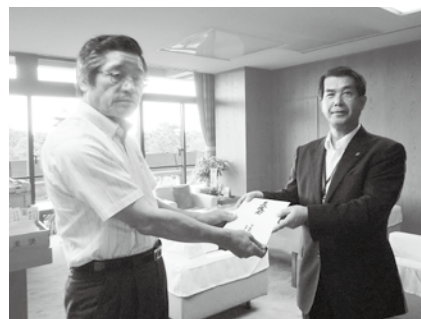
### 被災地支援募金ご協力のお願い

＝奈良県生協連では、台風12号災害支援募金口座を開設しました＝

- ◆ 期 間：2011年9月12日～10月31日
- ◆ 口座番号：南都銀行 南支店 普通口座 2084264 ◆ 口座名：奈良県生協連台風12号災害支援募金（三重県生協連・和歌山県生協連・奈良県生協連の合同で開設しますが、奈良県連が代表窓口となります）
- ◆ お預かりした支援金は台風12号で被害のあった三重県、和歌山県、奈良県の3県の自治体へ被害の状況に応じて配分し、責任を持ってお届けします。（送付通知をいただけると幸いです）

### □ならコープでは緊急物資・義援金を届けました

- 9月6日より店頭募金と募金口座開設、9月12日よりOCR募金を開始しました。
- 旧大塔村役場へバナナ、お菓子など支援物資を贈りました。これまで、天川村、黒滝村、野迫川村、下北山村に支援物資を届けています。13日には十津川村に届けました。
- 9月13日 小田専務理事、米田常任理事が十津川村へ支援物資として水や食料品などを届けました。また、十津川村、上北山村、下北山村、旧大塔村、天川村・川上村（一部）の地域にお見舞いセットのお届けとともに共済お見舞い活動を展開しました。
- 9月15日被災された方々の救援や被災地の復興に役立てていただくため、森理事長と野村常任理事が奈良県に対して500万円の義援金を届けました。



奥田副知事に義援金を届ける  
ならコープ森理事長

## □奈良県労働者共済生活協同組合が創立50周年を祝い記念式典を開催

奈良県労済生協は今年で創立50年を迎えたことを記念して「感謝のつどい」が9月5日、奈良ホテルで開催されました。会場にはこれまでの運動にかかわった歴代役員や関係者約80人が参加、東日本大震災と台風12号での犠牲者への黙祷をささげた後、森本哲次理事長は挨拶の中で、第二室戸台風のあった創立年から東日本大震災のあった今年までの取り組みを振り返り、50年を契機に県民のしあわせのためにたすけあいの輪を一層広げていきたいと述べました。また、台風12号災害対策本部会議から駆け付けた荒井正吾奈良県知事が、「奈良県では50年間で高齢化が進行、またグローバル化の影響で雇用環境も変容した。そんな中、労済生協は共助の中核組織として期待をしている」と祝辞を述べられました。

天理大学雅楽部による雅楽演奏を鑑賞したのち、予定していたレセプションは中止されましたが、労働者共済運動の意義と、その取り組みの歴史を土台に次のステップへのスタートを確かめ合う式典となりました。



挨拶をされる森本哲次理事長

## 奈良県生協連2011年度 第3回理事会報告

9月8日(木) 猿沢荘 16:00~18:30

### 【主な審議事項】

- (1) 2011年度上期活動のまとめと下期の課題
- (2) ピースアクションinなら2011(第22回奈良県生協大会)に関する件(第2次)
- (3) 2011年度下期奈良県生協連の医療福祉生協設立支援方針に関する件
- (4) その他事項の件
  - ①第3回食の安全懇談会について
  - ②2011年度奈良県への要望書
  - ③台風12号の被害と被災地への支援活動について

三輪敏通奈良県生協連副会長(前奈良県労働者共済生協 専務理事)が退任され、2011年度の県連理事会には、辻井宏育奈良県労働者共済生活協同組合 専務理事にオブザーバーとしてご出席いただくことになりました。三輪さん長い間ありがとうございました。

辻井さんよろしくお願いします。



前奈良県生協連  
副会長 三輪さん



奈良県労済生協  
専務理事 辻井さん

# 県連日誌

## 7月

- 5日 県指導検査(奈良女子大生協)
- 6日 関西地連男女共同参画委員会
- 7日 近畿地区府県連協議会
- 8日 ピースアクション学習会  
国本善平氏
- 13日 県指導検査(生活クラブ生協)
- 14日 奈良県生協連第2回理事会
- 15日 安心安全住まいづくり協議会
- 15日 関西消費者団体連絡懇談会
- 23日 医療福祉生協設立発起人会
- 25日 奈良地区大学生協部会
- 26日 HACCP 研修会
- 28日 関西地連運営委員会
- 29日 奈良県労済生協総代会

## 8月

- 1日 IPP テリー・テイラー氏との平和交流
- 19日 近畿地区大規模災害対策協議会
- 22日 公正取引委員会近畿中四国事務所中澤課長来訪
- 22日 国民生活センターのあり方シンポジウム
- 24日 ピースアクションをすすめる会
- 26日 奈良災害支援ネット
- 26日 温暖化防止ネットワーク関西世話人会
- 27日 医療福祉生協設立発起人会
- 31日 近畿地区生協・行政合同会議

## 9月

- 1日 奈良県食品安全安心懇話会
- 5日 奈良県労済生協 50 周年記念式典
- 6日 奈良県環境審議会水質部会
- 7日 地域生協組合員理事交流会  
実行委員会
- 8日 奈良県生協連第3回理事会
- 8日 会員生協理事長交流会
- 9日 奈良県保健環境研究センター訪問
- 11日 台風12号災害支援天川村炊き出し
- 13日 公正取引委員会消費者向けセミナー
- 15日 新しい公共会議体会議
- 24日 医療福祉生協設立発起人会
- 30日 奈良災害支援ネット

# お知らせ

◆◆◆ 医療福祉生協設立キックオフ集会 ◆◆◆

## 健康チェック＆健康相談

**日 時** 11月20日(日) 10時～(予定) **会 場** ならコープ コープみみなし

健康チェック(血圧、体脂肪、生活習慣チェックなど)、健康相談

**講 演** 健康なくらしと医療福祉生協の健康習慣

自分と家族の健康を守るために、正しい情報を学び、健康状況をチェックします。

**主 催** (仮)奈良県医療福祉生協設立発起人会 TEL 0742-35-1183

## 編集後記

台風12号がもたらした豪雨で大きな爪あとが残った天川村の炊き出し応援に参加しました。破壊された家屋の片付けに汗を流す村の方々とボランティアに接し、復旧に向かう人々の強さとそれを支えるつながりのあたたかさを目の当たりに感じた一日となりました。東北大震災からちょうど半年、身近に起こった災害に自分はどう行動するか、日ごろの防災と災害支援の意識をもっと高めようと思っているところです。(由)

東日本大震災から半年。今度は台風12号により紀伊半島南部に尋常ではない大雨が降り大規模な土砂崩れがおこり、自然の脅威をまざまざと見せつけられました。被災されお亡くなりになられた皆様のことを思うと本当に心が痛みます。災害の起こった3日後に関西電力の揚水発電所と長殿水力発電所を見学する予定でした。長殿はせき止めダムが出来てしまい発電所は跡形もなく壊れました。3.11以降、日本のエネルギーのあり方や生きることについて考えることはかりです。(順)

9月11日に、天川村での炊き出しに参加しました。アメリカ同時多発テロ事件から10年、東日本大震災から半年、台風12号豪雨から1週間。あらためていのちの大切さを考える一日となりました。(和)